

■ 平成28年10月19日～20日 総務警察委員会県外調査（富山県）

1 10月19日 富山県広域消防防災センター・富山県消防学校(富山市惣在寺1090-1)

【調査目的】

広域消防防災センター整備の経緯と機能

【調査概要】

広域消防防災センター整備の経緯と機能について説明を受けた後、センター施設を見学。

〈説明の概要〉

(1)「広域消防防災センター整備の経緯と機能」について

① 整備の経緯

i) 背景

- ・昭和45年に建設された前消防学校が築後40年が経過し、老朽化が著しく、また、教室・訓練施設が狭隘であるなど、教育訓練機能が不足していたことなどから、消防職員等の人材育成機関としては十分といえず、早急な再整備が喫緊の課題となっていた。
- ・近年の複雑化、多様化、大規模化する各種災害に即応できる消防職団員の資質向上を図るため、高度で専門的な教育訓練が必要とされていた。
- ・平成7年の阪神・淡路大震災をはじめ、平成16年の新潟県・福井県での豪雨災害、新潟県中越地震の状況から、大規模災害時に迅速・円滑な災害対策活動を実施するための活動拠点を確保することが重要とされていた。

ii) 施設整備の基本方針

- ・平成17年10月に富山県防災拠点施設・消防学校整備のあり方検討会を設置。
- ・平成19年1月に報告書がまとめられ、消防学校の整備を急ぐこと、消防学校と防災拠点施設とを一体的に整備すること等の基本方針が示された。

iii) 開所までの経緯

平成19年 1月	富山県防災拠点施設・消防学校整備のあり方検討会報告
平成20年 9月	富山県消防学校・防災拠点施設整備基本計画策定
平成20年12月	用地買収契約締結
平成21年10月	敷地造成工事着工
平成22年10月	建物本体工事着工
平成23年 6月	富山県広域消防防災センター条例公布
平成23年10月	建物本体工事完成
平成24年 4月	オープン

② 施設の概要

i) 立地にあたって考慮された観点

- 災害を受けにくい地形・地盤であること
- 交通アクセスは、消防職団員が利活用しやすいこと
- 教育訓練の基準を満たす一定の面積を確保できること
- 放水訓練等による周辺環境（近隣住宅など）への影響が少ないこと
- 備蓄・救援物資の物流拠点機能や他県からの受援機能等が確保できる立地条件であること
- ヘリコプターの離着陸に支障がないこと

ii) 施設概要及び組織

施設概要	所在地	富山市惣在寺地内
	構造	鉄筋コンクリート3階建て（一部2階建て）
	敷地面積	4.2ha
	延床面積	12,730㎡
	総工費	約49億円
建物機能	管理・教育施設（消防学校教育） 宿泊棟（定員60名） 訓練施設（屋内訓練棟、主訓練塔、補助訓練棟、水難救助施設、実火災訓練棟等） 防災拠点施設（体験型学習施設、備蓄倉庫等）	
組織	 <pre> graph LR A[所長 (事務)] --- B[副所長 (消防学校長)] B --- C[消防学校長 (事務)] C --- D[副校長 (消防)] D --- E[事務1 教官5 (消防)] B -.- F[四季防災館 (指定管理)] </pre>	

③ センターの機能等

i) 機能

平常時	災害時（災害対策拠点）
○消防・防災関係者の教育訓練・防災訓練 ○県民の防災教育 ○災害に備えた食糧・生活必需品等の備蓄	○震災時に備えた食糧・生活必需品、救援物資の輸送、集積、配給を担う輸送拠点施設 ○県外からの応援部隊を受け入れるための受援機能 ○県災害対策本部の補完機能

ii) 施設内容

- 災害時に対応した建物・設備
 - ・大地震にも十分耐えられる耐震建築物（震度6の耐震性を確保）
 - ・自家発電設備
3日間連続運転が可能で、そのための軽油も備蓄している
 - ・備蓄倉庫
救援物資（寝具、防水シート、非常食 [35,000食]、救助資機材、簡易トイレ）を備蓄
 - ・耐震性貯水槽
飲料水を常時100㎡確保
 - ・井戸の設置
- 全国トップクラスの訓練施設
 - ・主訓練塔（高さ45m）
50m級のはしご車による訓練や高層建築物の消火訓練が可能
 - ・水難救助施設（深さ10m・水底は可動式）
気泡発生装置を有しており視界がきかないところの訓練が可能
- 四季防災館（災害を四季でとらえた体験型学習施設）
 - ・地震体験、風雨災害体験、初期消火体験施設等

iii) 訓練内容

- 消防職団員向け
 - ・主訓練塔を活用した消火・救助訓練
 - ・潜水専用プールを活用した水難救助訓練
 - ・山岳救助技術を活用した実践的な救助訓練
- 防災関係者・一般県民向け（自主防災組織率の向上 36.0% [H16] →73.3% [H25]）
 - ・四季防災館での体験学習（流水体験を含めた風雨災害体験等）
 - ・高齢者等が自分を守るための訓練・研修
 - ・地域で高齢者等を救助するための訓練・研修

5. 質 疑

Q：検討時には、段階的に拡幅することも検討されているようだが、実際、拡幅はされたのか。

A：できて4年なので拡幅はされていない。基本は消防学校が中心で、組織的にも、元の消防学校の組織の上にセンター所長が乗った形になっている。ハード面では自慢の施設だが、ソフト面、防災訓練については考えていかなければならない。トラック協会や自衛隊、各消防本部等との連携をどう確保していくかがこれからの課題だと思っている。

6. 施設見学



備蓄倉庫



主訓練塔



四季防災館（地震体験）



2 10月20日 富山県議会（富山市新総曲1-7）

【調査目的】

富山県の芸術文化振興施策

【調査概要】

富山県における芸術文化振興施策について説明を受け、質疑応答。

〈説明の概要〉

（1）「富山県の芸術文化振興施策」について

① 新世紀とやま文化振興計画（改訂版）の概要

- ・富山県では「富山県民文化条例」に基づき、平成18年度に「新世紀とやま文化振興計画」を策定し、文化の振興を通じた「元気とやまの創造」に取り組んできた。
- ・しかし、計画策定から6年が経過し、特色ある地域文化への関心の高まり、県出身の芸術関係者の活躍や世界的な金融・経済危機の発生等に伴う文化行政の見直しなど、取り巻く環境が大きく変化しており、新たな施策・事業の展開等が求められていることから、

計画を見直し、平成24年度から平成33年度を目標とする「新世紀とやま文化振興計画（改訂版）」を策定した。

- ・改訂版についても、見直しから5年が経過したことで、現在も見直し作業を進めながら取り組んでいる。
- ・「元気とやま」の創造として、「文化活動への幅広い県民の参加」、「質の高い文化創造と世界への発信」を柱に、にぎわいづくり、産業振興、観光振興との連携など、社会の各分野で文化の振興と連携した総合的な施策の展開に取り組んでいる。

② 施策体系

	施策の方向性	主な重点施策（抜粋）
文化活動への幅広い県民の参加	身近なところで優れた文化を鑑賞する機会の充実	○優れた美術、音楽、演劇などを文化施設で鑑賞する機会の充実 ○ふるさと文学に親しみ・学ぶ環境づくりの推進 等
	文化の創造への支援	○美術、音楽、演劇などの練習の場の確保 ○指導者の確保と養成 等
	文化を通じた交流・文化活動への参加の拡大	○支援する人々との協働の促進 ○県民の文化活動への参画の促進 等
	次世代を担う子どもたち、青少年の文化活動の充実	○青少年の芸術鑑賞、体験事業の充実 ○青少年の創作活動への支援 等
質の高い文化創造と世界への発信	アジアを代表する舞台芸術の拠点づくり	○演劇の聖地にふさわしい舞台芸術空間づくり ○世界演劇祭の開催などによる舞台芸術の発信 等
	特色ある国際的な文化振興事業の展開と発信	○世界ポスタートリエンナーレトヤマなどの国際事業の開催 ○とやま世界こども舞台芸術祭等芸術団体等による創造と発信の推進
	富山固有の文化の発掘と県民による再認識と発信	○おわらなど貴重な伝統文化の発掘と発信 ○富山ゆかりのふるさと文学の振興と発信 等
	情報通信等技術を活用した文化の創造と発信	○バーチャルミュージアム、総合ポータルサイトによる情報発信 ○新しいメディア等を活用した文化の発信
文化と他分野の連携	文化振興と観光振興	○文化を活かした観光の振興
	文化を活かしたまちづくり・地域づくり	○地域の文化資源を活かしたにぎわいづくりの促進 ○歴史と文化を活かしたまちづくりの推進 等
	とやまの食の魅力のアピール	○食文化の魅力を全国に発信
	文化を活かした産業の振興	○文化を活かした産業の振興 ○最先端のものづくり文化の創造

(2) 「新近代美術館（仮称）の整備」について

① 経緯

現在の近代美術館は昭和56年に開館され、35年経過しているため、ハード面で以下の課題がある。

- ・耐震性の不足
Is値が低い状態で（通常0.75必要）早急な整備が必要な状況であること
- ・消火設備
現在、スプリンクラーが入っているが、美術作品（特に絵画）への影響を考えると、スプリンクラーは適当な設備ではないこと
- ・空調設備
現在の美術館は、24時間空調で作品を維持管理しているが、それに対応できる設備ではないこと

また、平成23年、展覧会における美術品損害の補償に関する法律が定められ、現在の近代美術館は、補償対象となるための設備基準を充たしていない状態となっている。補償制度を受けられなければ、国内外の美術館から美術作品を借りれず、国内外の美術品ネットワークから取り残されてしまうことになる。

このようなことから、平成25年に県立文化施設耐震化・整備充実検討委員会が設けられ、検討の結果、新たな機能の整備や現在の美術館が手狭であることから、移転新築の提言を受け、富岩運河環水公園西地区への移転新築を進めているところである。

② 概 要

施設概要	所在地	富山市木場町3-20
	構造	地上3階・鉄骨造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造）
	敷地面積	12,548㎡
	延床面積	14,990㎡（うち美術館用途9,965㎡）
	建物竣工	平成28年10月
階別構成	1F：事務室、TADギャラリー、カフェ、駐車場	
	2F：ホワイエ、展示室1～4、屋外広場	
開館予定	平成29年3月下旬	一部開館（アトリエ・レストラン・カフェ等）
	平成29年5月連休頃迄	屋上遊具供用開始
	平成29年8月26日	開館（開館記念展の開催）

5. 質 疑

- Q：県は芸術文化に大変力を入れていると思うが、文化振興予算はどれくらいあるのか。
- A：説明資料は主要事業だけで、それ以外に各施設の管理費等がある。文化振興課の予算でいえば、新近代美術館の整備で約30億円、それ以外で約21億円。高志の国文学館が指定管理や企画展示経費で約2億円、文化ホール（4施設）が、修繕費を含め約7億円余り、立山博物館が指定管理と展示事業で約2億円、現在の近代美術館が約2億円、水墨美術館が約1.5億円などです。
- Q：今の近代美術館に、県外からも多くの方が来られるのか。
- A：正確なデータは今手元にはないが、企画展によりばらつきはある。今年度、スターウォーズ展が大変賑わったが、駐車場では県外ナンバー（関西、中部、中・四国等）が多かった。
- Q：新近代美術館の総工費はいくらか。
- A：建築費総額で85億円です。
- Q：立山砂防について、もう少し詳しく。
- A：所管外のところがありますが、長い砂防の歴史の中で、砂防施設が特徴的な遺産ということで、防災を主眼にした世界遺産はないとユネスコ関係者から共感いただいている。そういった関係者に来ていただき、これからどのようにすればいいかを議論しているところ です。



3 10月20日 高志の国文学館（富山市舟橋南町2-22）

【調査目的】

高志の国文学館整備の経緯と概要

【調査概要】

高志の国文学館整備の経緯と概要について説明を受けた後、館内施設を見学。

〈説明の概要〉

(1) 「高志の国文学館の整備の経緯と概要」について

① 整備の経緯

平成20年 6月	文学振興に関する検討を開始
平成22年 3月	知事公館を廃止し文学館建設を発表
平成22年11月	館長予定者として辺見じゅん氏が顧問に、アドバイザーとして中西進氏、藤子不二雄A氏、篠田正浩氏、滝田洋二郎氏が就任
平成23年 4月	公募したレストラン部門に、落合シェフの直営店の出店が決定
平成23年 7月	建築工事（～平成24年6月）
平成23年 9月	辺見じゅん顧問急逝
平成23年12月	中西進館長就任
平成24年 7月	高志の国文学館開館

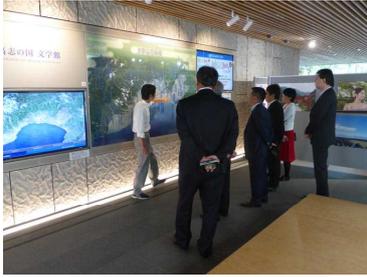
② 文学館の概要

- ・高志の国文学館は、旧神通川の河床上に建設されている（神通川は明治後期から大正期にかけて頻繁に起こる氾濫のため河川改修が行われた）。
- ・富山駅から約1km、徒歩で約15分のところに位置する。
- ・文学館の建物は、旧知事公館を活用、増築されたものとなっている。旧知事公館の建物や緑豊かな庭園は、大変趣き深いものであったため、できるだけ活用し、緑の囲まれた静かで落ち着いた佇まいを創出するよう設計されている。
- ・名称の高志の国（こしのくに）は、1300年以上前の北陸地方（現：新潟・富山・石川・福井〈越前・越中・越後〉）一帯の呼び名である「越」と「高い志」を掛けて「高志の国」と命名している。
- ・開館時間等

開館時間	9:30～18:00（研修室・レストランは21:00まで）	
休館日	火曜日（祝日を除く）	
観覧料	常設展一般200円（20名以上の団体は160円）※高校生までは無料	
企画展	様々なジャンルの企画展を年3～4回開催	
	<ul style="list-style-type: none"> ・大伴家持と越中万葉 ・少年時代（藤子不二雄A） ・立山曼荼羅 ・辺見じゅんの世界・棟方志功 ・藤子・F・不二雄 	<ul style="list-style-type: none"> ・おわら風の盆と文学 ・川の文学 ・松本清張 ・竹久夢二 ・面白い箱（アニメづくり） など

- ・県民サービス向上の観点から、本年4月より、美術館等も含め18:00まで開館時間を延長している（従前は17:00まで）。
- ・大半の施設は月曜日休館のため、月曜日に利用できる施設がないことを避けるため、当館の休館日は火曜日に設定している。
- ・大伴家持の越中万葉から現在に至るまで、富山県に縁のある文学作品等を展示している。
- ・子ども向きの企画展も開催し、家族で来館してもらえることを目指している。
- ・来館者数は4年3ヶ月（51ヶ月）で53万人となっている。

(2) 施設見学



ふるさと文学の回廊
(文学鳥瞰地図)



ふるさと文学の回廊
(代表的作家をパネル等で紹介)



ふるさと文学の蔵
(万葉とばし)

万葉とばしは、大伴家持が越中国守として努めた間に詠んだ秀歌を、文字、朗読、映像、自然の音も交えて体感できる装置

